

編集委員長就任のご挨拶とお願い

「医療」編集委員長
東京医療センター 白井 宏

本年3月をもって湯浅龍彦先生が国立精神神経センター国府台病院を退職されたのにもない、小生が編集委員長を引き継がせていただきました。伝統と歴史ある本誌の編集を引き継ぐのは、浅学菲才の小生にとってきわめて荷の重い仕事です。湯浅先生が卓抜なアイデアとたゆまぬご努力で、お力を注いだ後だけになおさらです。

さて、今後本誌をどのような方向に発展させるべきか、多くの方々のご意見、ご指導を得ながら徐々に考えてゆきたいと思っておりますが、当面の考えを少し述べさせていただきます。

本誌は国立医療学会の雑誌であり、特定の分野の医学雑誌ではなく、医学、医療全般の問題を取り上げる雑誌であること、さらに何よりの特徴は、医師のみでなく、薬剤師、看護師、助産師、診療放射線技師、臨床検査技師、栄養士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、臨床工学技士などの医療職すべてはもちろん、事務系の職員までを含む多職種で作る雑誌であることと思われまふ。この点を今後も生かして、一つのテーマに関して、多職種の人たちが、それぞれの立場から、また職種間の連携を強化する立場から執筆する特集などを企画していきたいと考

えます。また、他職種・他科にとって有益な解説、総説などを各施設の方々に積極的にお願いして参ります。

各病院の研修医をはじめとする若い人たちにも魅力となるような企画を、編集委員一同で考えていきたいものです。そのひとつとして、ある編集委員からご提案があり、各病院で行われている、カンファレンス、CPCなどの記録を記事にしていけないか検討して参ります。

医師以外の職種の方をはじめとして、本誌の査読は厳しいという評判を聞いたことがあります。できるだけ掲載論文の質を上げ、どの職種にとっても「医療」に掲載されたということが自信につながるようでありたいと考え、この点を変えず、チェックするのみでなく、著者の方々によりよい論文にしていただくよう協力していきたいと考えています。

本誌の置かれた状況は、決して楽観できるものではありませんが、会員の皆様と編集委員各位のご協力で少しでも発展を続けられるよう努力したいと存じます。会員各位の忌憚きたんのないご意見、アドバイスをいただきたくお願い申し上げます。